

# 相模原市テニス協会 設立50周年 会長メッセージ

## ～設立50周年に寄せて～

相模原市テニス協会 会長 渋谷 嘉一

昭和 49 年に相模原市硬式庭球協会として設立された相模原市テニス協会は、今年度、50 周年を迎えることができました。おかげさまで当協会の正規加盟団体は 50 を数えるに至っております。

これもひとえに相模原市テニス協会創立にご尽力された方々、加盟団体各位、テニス関係者、神奈川県や相模原市等のスポーツ行政の皆様にご心より感謝を申し上げます。

当協会設立当時の昭和 49 年頃は、本市においては後の淵野辺公園コート of 整備に繋がっていくキャンパスが全面返還されております。また、テニス界においては、昭和 50 年に沢松和子選手がアン清村選手と組んでウィンブルドン女子ダブルスに優勝し、日本女子初のグランドスラム覇者となってテニスの話題で多に沸き立った時でありました。

当協会においては、テニスの普及・拡大を図るためのテニス教室の開催や第 1 回市民テニス選手権大会（昭和 51 年）の開催などその歩みが始まったところです。

その後の当協会の歩みは、30 周年記念の佐々木会長（当時）、40 周年記念の高橋会長（当時）のメッセージにもありますので、ここでは一部補足しながら、この 10 年の主な歩みを振り返ってみます。

### <日本選手の国際的な活躍>

日本のテニス界においては、2014 年（平成 26 年）錦織圭選手が全米オープンテニスでの準優勝や 2016 年（平成 28 年）リオデジャネイロ五輪で 96 年ぶりの銅メダルを獲得するなど活躍をみせました。

また、大阪なおみ選手が 2018 年（平成 30 年）全米オープンテニスで日本選手として初めての四大大会シングルの覇者となり、2019 年（平成 31 年）の全豪オープンテニスでの優勝により世界ランク 1 位の座にも就き、また、同年の全米オープンテニスで連覇を達成するなど素晴らしい活躍を見せてくれました。

2023 年（令和 4 年）の東京五輪では車いすテニスの国枝慎吾選手がシングルスで金メダルを獲得するなど第一人者としての実力を披露してくれました。

### <新型コロナ感染症による影響>

何と言っても忘れてはならないことは、新型コロナ感染症によるテニス界への影響です。

2020 年（令和 2 年）に発生した新型コロナウイルスによる感染拡大は、これまで当たり前のように来ていたことに様々な制約や見直しが課せられ、テニス界においても例外ではありませんでした。

繰り返された「緊急事態宣言」に伴い、本市施設の淵野辺公園コートや横山公園コート等の利用が休止され、市民テニス選手権やあじさいカップ、テニス教室等の事業の中止を余儀なくされたところは記憶に新しいところです。

また、テニスという競技への関り方も変化し、試合後の握手からラケットタッチへの変更、声援の自粛、コートベンチ等の消毒などの他、大会等への参加前の健康管理シートの提出の義務付け、感染者や濃厚接触者の大会等への欠場を求めるなど「辛い」選択をせざるを得なかったことを忘れてはなりません。

ただ、私たちはこのような経験から学んだこともたくさんあり、テニスをする事ができる喜びもまた感じたことも事実です。これからも様々な想定外の事態に直面することもあるかと思いますが、忍耐と希望を忘れなければ必ずや乗り切っていくものと固く信じております。

#### <市実業団対抗テニストーナメントへの同好会の参加>

市実業団対抗テニストーナメントは、神奈川県や関東大会、ひいては日本リーグに繋がる重要な大会ですが、不透明な社会経済情勢により市内実業団登録チームが減少し、競技レベルの維持向上や大会自体の在り方等について課題がありました。

そこでこのような状況を打開すべく 2009 年（平成 21 年）からサークル・同好会チームの参加を試行的に実施しました。このことによりサークル・同好会の皆さんが公式な団体戦の楽しさを体験し、モチベーションアップに繋がるとともに大会のレベル向上に寄与することができました。

一方で、サークル・同好会チームの参加数の増加により本来の「実業団」の大会としての意義も問われることにもなり、2022 年（令和 4 年）度からサークル・同好会チームを「正規加盟団体」と「準加盟団体」に区分して参加数に一定の制限を設ける運用を行うとともに 2023 年（令和 5 年）度からは『実業団』と『サークル・同好会』の部を分けて開催するなど、今後も実態を踏まえながら在るべき大会の運用に努めていきたいと考えております。

#### <テニスを通じた共生社会の実現に向けた取組>

2015 年（平成 27 年）、市内 N プランニング代表の中澤吉裕さん（車いすテニス日本代表チーム監督）との交流から協会の一部有志役員と指導員が車いすテニスを体験し、以降、車いすテニスサークル Smile のサポートが始まり、2016 年（平成 28 年）には相模女子大で開催された車いすテニス体験・講習会に当協会の有志がボランティアとして参加しました。

また、共生社会への一歩として 2021 年（令和 3 年）の「さがみはらゆめプロジェクト実行委員会」の立ち上げに伴い、当協会も参画し、2022 年（令和 4 年）2 月に國學院大學相模原グラウンドにおいて記念すべき第 1 回の「さがみはら“ゆめ”プロジェクト」が開催され、プロ車いすテニス選手などによる講習やゲーム形式の試合を楽しみました。

続く第 2 回の「さがみはら“ゆめ”プロジェクト」として、障害者テニス体験イベントをけやき体育館で 2022 年（令和 4 年）12 月と 2023 年（令和 5 年）1 月に開催し、車いす・立位・聴覚・視覚・知的の 5 つの障害に分けて、テニスの体験会を行いました。

さらに続く本イベントとして同年 2 月に小倉（やまびこ）テニスコートの改修後のこけら落としも兼ねて 5 つの障害者テニスの体験会の他、車いすテニスプロや立位テニスプロなどによるデモンストラーションやミニトークショーなど行いました。

これからも障害のある、なしに関わらず、スポーツを通じて交流を図ることにより、多様性についての理解や障害者スポーツの推進に寄与できるよう取り組んでまいります。

#### <神奈川県体育功労者表彰を受賞>

2021 年（令和 3 年）に多年にわたり体育・スポーツの普及振興に献身努力し、スポーツの発展に寄与したとして当協会が神奈川県体育功労者表彰を受賞させて頂きました。これまで関わって頂いたすべての皆様に改めて感謝するとともにこれからも「入り口を広げて全体のレベルアップを図る」取組を進めて

まいります。

結びになりますが、50周年を迎えるにあたり、当協会加盟団体及びテニスを楽しむ方々に対して広く感謝の意を表すとともに、テニスを通じた市民の心身の健康の維持・増進並びにテニスの一層の普及を目的として様々な記念事業を実施いたしますので皆様の奮ってのご参加をお願いいたします。

そして、次の50年を見据え新たな時代に向けた相模原市テニス協会の活動に、どうか変わらぬご理解ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げ、会長メッセージとさせていただきます。

#### ※ 参考資料

<当協会の活動の拠点たる市有施設のテニスコート沿革>

これまで当協会の活動拠点として無くてはならないテニスコート、特に横山公園テニス場、淵野辺公園テニス場、鹿沼公園テニス場、大野台南テニス場の沿革にも参考までに触れておきたいと思います。

#### ■横山公園テニス場（12面）

1960年（昭和35年）度	クレーコート3面整備
1963年（昭和38年）度	クレーコート2面増設
1982年（昭和57年）度	クレーコート3面増設
1983年（昭和58年）度	クレーコート4面増設、観覧席整備・管理棟建設
1985年（昭和60年）度	夜間照明設備建設

#### ■鹿沼公園テニス場（4面）※

1973年（昭和48年）度～	クレーコート4面兼バレーボールコート整備
1984年（昭和59年）度～	全天候型コート
1991年（平成3年）度～	砂入り人工芝コート

※詳細な記録が一部不明です。

#### ■淵野辺公園テニス場（12面）

1989年（平成元年）度	砂入り人工芝コート6面整備
1995年（平成7年）度	壁打ちテニス設置
2014年（平成26年）度	砂入り人工芝コート6面増設

#### ■大野台南テニス場

2007年（平成19年）度	砂入り人工芝コート4面整備
---------------	---------------